

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区宇納間170番地		
自己評価作成日	平成25年10月2日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JigyosyoCd=4572100644-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が住み慣れた地域で、出来るだけ今までの生活に近い環境で生活できるよう、昔話を聞いたり、方言を使うなどしている。また、呼び名も家族に了解を得て、今まで呼ばれていた呼び方で呼ぶなどして、より家庭的に近い生活ができるよう工夫している。地域性もあり、外で農作業をしてきた人がほとんどなので、出来るだけ外に出て、気分転換が図れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷地内には、介護保険施設や居宅介護事業所があり、各事業所の独自の事業内容のほかに、防災、災害、重症者、食事、車両使用など、相互の連携や協力体制が構築されている。職員の多くが、当地域の出身者であることも、利用者のライフスタイルを理解し、地域密着型サービスの意義に基づいた支援が行われる要因にもなっている。運営者は、利用者に質の高いサービスを提供するため、職員の資質と意欲の向上、働く環境づくりのために、職員の相談や意見から課題解消に努め、それが各事業所の連携や協力体制の構築に現れている。また、資質の向上のために、資格取得や研修への積極的な参加を勧めている。運営者と職員は、ホームの理念を共有し、利用者の人格を尊重した個々に対応する支援を展開しており、更なる高い目標達成に向けた思いを持っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを大切に」を理念にかかげ、一人ひとりが住み慣れた地域で、これまでの生活が送れるよう支援している。	地域密着型サービスの意義である住み慣れた地域で生活が継続できるように、個々の希望や人格に配慮した支援を理念に、管理者と職員は日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から近所を散歩したり、買い物、地域行事等に参加し、近隣の人や知人等と交流し、地域とのつながりが途切れないように支援している。	小規模な旧村では、ほとんどの住民は旧知の関係であるので、散歩や買い物、地域行事など外出や病院受診、デイサービスなどを交流の機会としている。秋祭りでは、みこしが敷地内を巡行し、地域も厚意的な配慮を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への外出時や地域の人との面会時等に、認知症の人への理解や支援の方法を伝えるよう努力している。地域の人、話を合せてくれたり等、少しずつ対応の仕方に理解を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や苑での取り組み、行事等を報告している。また、利用者との交流や実際の防災訓練を一緒に行うなどして、委員の方より意見をもらい、サービス向上に活かせるようにしている。	利用者の状況報告に、個人情報上の検討が必要なこともあるが、防災訓練と一緒に参加し、委員の意見で消火器を誰にでもわかる場所に変更するなど、運営やサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苑便りを発行したり、運営推進委員会に参加してもらい、苑の実情や取り組みを積極的に伝えている。普段から協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議以外にも担当課に出向いたり、担当者が訪問したり、双方向的な情報交換や提供を行うなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員が理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。安全面を優先して、やむを得ない場合のみ、家族に相談、話し合いの上、了解を得ている。	職員は、拘束について理解している。ベッドの4点柵が必要であっても、就寝中の最短時間にとどめるなど、拘束を行わない方法に努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、日頃から職員同士、互いの言動に気を付け、注意し合い、防止に努めている。また、ニュース等で取り上げられたときなどは、苑でも話題にし、互いに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告等で、時々学ぶ機会を持っている。個々に必要性が障じた場合は、関係者と話し合い、活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者、家族等に十分な説明を行い、不安の解消に努めている。また、料金等で不安や疑問がある場合も、その都度、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者や家族等が、意見、要望を言える環境、関係づくりに努めている。意見、要望が出た場合は、速やかに上司に報告し対応している。	「病院受診中で検査しているのに、一般健診を受けなければならないか。」との家族の疑問に対応したり、「ホームだより」で生活状況を知らせ、来訪時に意見が出しやすいように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やその都度、必要に応じて、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員の意見で、家族が受診に同行できない時は、同敷地にある特別養護老人ホーム入所者の受診時に同行をお願いしている。外出支援を集団から個別対応にして、外出回数を増やすようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況等を把握し、ねぎらいの言葉をかけたり、職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修を受ける機会が確保されている。また、介護福祉士やケアマネ資格取得には勉強会を行うなど、力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通して交流する機会があり、互いに情報交換を行ったりし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、必ず本人と面談をし、本人より不安等を聞くようにしている。本人が安心してサービスを受けられるように、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、今までの苦労や今困っている事を聞き、家族の気持ちを理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を良く把握し、居宅支援事業所等の関係機関と連携をとり、本人、家族が必要としている支援を考え、安心できるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来ることや興味のある事を一緒に行い、時には笑い、時には悲しみを共有する等して、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、本人と家族が共に過ごす時間を多く持てるよう、働きかけたりしている。また、本人の思いを家族に伝えたりし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や地域の行事等に参加したり、行きつけの理・美容を利用し、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	個々の条件に対応した、なじみの継続のための外出や隣接施設の入所者、デイサービスに通う知人に会えるよう、なじみの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活や余暇活動を通して、利用者同士が関わりを持つ場面を作り、良い関係ができるよう支援している。また、トラブルにならないよう、利用者同士の関係をしっかり把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、これまでの関係を大切に、経過を見守り、相談、支援に努めている。また、他施設等へ入所する場合は、本人の状況を詳しく伝え、これまでの生活が送れるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を聞いたり、普段の生活から把握するように努めている。困難な場合でも、家族、職員で話し合い、その人らしい暮らしができるよう支援している。	初期のアセスメントに重点を置いている。その日に気づいたことを個人ごとのノートに記入し、職員全員で情報を共有している。家族から昔の好みや生活習慣を把握し、本人の気持ちを理解しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、生活歴や生活環境等、話せる範囲で話してもらったり、これまでのサービス利用等の経過を関係機関から情報提供してもらうなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身の状態など、細かく観察し、記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回、又は必要に応じて、介護計画書を見直している。本人、家族、関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、現状に即した計画書を作成するようにしている。モニタリングをしっかりと行い、見直しに活かしている。	短期目標の達成計画の見直しを前年度の目標達成計画に掲げ、様式の検討や家族、利用者ごとの担当者および計画作成者が協力して、モニタリング、評価を行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、一日の流れを見て、気づいた事等を細かく記録している。職員間で共有し、ケアのあり方や介護計画書の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を常に把握し、その時々々のニーズに応えられるよう、他職域等と連携をとり、柔軟な支援をしている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホームあじさい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容店や図書館、商店へ出かけ、本人が住み慣れた地域で暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医(内科、眼科等)の受診を定期的に行っている。受診の際は、家族、又は主治医に必要な事を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前から地域の医療機関を掛かりつけ医にしている人が多い。入院および夜間や休日対応も可能で、協力医療機関でもある。相互の情報提供が口頭でも十分であったが、文書による情報交換にしよう検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態をしっかり把握し、日常的に職場内(法人内)の看護職に伝えたり、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の状態を伝え、入院した際に安心して治療を受けられるよう、病院関係者との情報交換に努め、より良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後、重度化した場合や終末期のあり方を本人、家族と早目に話し合い、事業所でできる事を説明しながら、主治医、看護師、相談員等と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化した利用者もいたが、同法人の特別養護老人ホームや入院のため転出し、ホームでの看取りの実績はない。家族がホームでの看取りを強く希望した場合について、職員や関係する機関を含めたチームとしての具体的な方針、また、文書化するには至っていない。	希望する家族の有無にかかわらず、ホームにできることを職員間で検討し、目標達成時期を決め、関係者との協議を重ねることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、対応できるように自主研修等で勉強会を行っている。また、法人内には、AEDが備え付けられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に災害の想定を計画して、防災訓練を行っている。防災無線の設置や役場との協力体制もできている。また、運営推進委員を交えて訓練を行い、意見をもらうなどしている。	年間計画により防災訓練を毎月実施している。行政の防災担当課職員が運営推進委員になっており、適切な指導や助言が得られる。他の推進委員も訓練に参加して、職員が気づかなかった意見が提言され、訓練内容も充実してきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った声かけ、対応に心がけ、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	方言や昔からの呼称を使い、家族的で親しい仲にも優しく語り、強い言調で話さないよう、職員は共有し実践している。昼食時の会話にも、プライドを損ねない言葉かけや口角からこぼす時の介助もさりげなく行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、各個人との信頼関係を作り、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。また、うまく表せないような場面では、表情や反応を見て、思いや希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を見ながら、本人のペースに合わせてケアを行い、出来るだけ希望に添うように支援している。例えば、散髪、買い物等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容店に出かけたり、本人の好みの服を準備したり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りや収穫を一緒に行い、食事に取り入れ、食事が喜びや楽しみにつながるようにしている。また、個々の状態に合わせて、下膳等ができる人にはお願いしている。	同法人の栄養士の献立の食材を調理している。誕生会はホームでケーキや飲み物、手作りのおやつを作っている。毎回、献立の説明があり、話題にしながら食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、バランスの良い食事が提供されている。水分摂取や食低下時は、本人の状態や好みに合わせて、工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて、口腔ケアを行っている。どうしても、応じてもらえない利用者には、うがいだけでもしてもらうよう、根気強く声かけしたり、歯科医に相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、声かけしたり誘導する事で、オムツの使用を出来るだけ減らし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中はトイレでの排せつを支援している。尿意、便意がなくても、時間誘導により、排せつの自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給を行い、スムーズな排便につながるよう支援している。また、個々の状態に応じて、主治医に相談、指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、毎日、入浴日としており、個々の状態に合わせて、外出予定や病院受診等を考慮しながら支援している。	毎日でも入浴可能であるが、おおむね週3回入浴している。受診や外出時には入浴回数を増やすなど、柔軟に対応している。利用者には個々の洗身介護(自立、一部介助、全介助)を行い、ゆったりとした入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の状態に合わせて、休憩時間を作ったり、日中の活動を充実させ、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの薬情をファイルに閉じ、いつでも個々の服薬状況が確認できるようにしている。また、定期薬の変更等がある場合は、口頭や連絡帳などを活用し、申し送り、事故のないように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を見つけて、役割を決め、張り合いを持ってもらったり、編み物などの楽しみごとをして、気分転換をしながら過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、出来るだけ戸外へ出て、気分転換が図れるようにしている。また、家族の協力で、墓参りや思い出のある場所への外出支援も行っている。年2回は、普段いけないところへの遠足も行っている。	日常的には、ホーム周辺を散歩したり、近くのスーパーに外出している。車での外出は、年2回の遠足や家族の協力による墓参り、帰宅、職員によるドライブがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を所持する事は、混乱やトラブルを招く事がある為、普段は預かりをしている。本人が管理したい希望がある場合は、家族と話し合い、管理方法を決めている。商店では、自分で支払う事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたい、手紙を書きたいと希望があれば、状況を見て出来るだけ本人の希望に添うように支援している。携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に気持ちよく清潔を保ち、不安や混乱がないようにトイレ等に分かりやすく目印を作っている。また、季節感を味わえるように季節の花を飾ったりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	ホームは、田園の風景からも季節の変化が見られるが、居室には壁画や花を飾り、季節感を出している。町営のテレビ局(キラキラビジョン)が、町内のニュースや行事、小・中学校の運動会などを放映しているのので、テレビを媒体に地域とのつながりを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースには、ソファを配置したりテレビを置き、会話を楽しんだり、くつろいで過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して、本人の状況に合わせて、居心地良く過ごせるよう工夫している。使い慣れた家具を置いたり、家族の写真を置いたりしている。	居室は畳を敷くことも可能である。本人が希望するベッドの方向に配置したり、自宅からの持ち込み物も個人差があるが、好みの物は家族と本人で決めている。自室は名前やシールを貼り、わかりやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、居室やトイレに目印をする等して安全に、また、不安や混乱なく生活出来るように工夫している。		